

真高寺だより

第22号

平成26年8月1日発行

発行所：真高寺（伊澤孝順住職）

住 所：市原市飯給1143

電 話：0436-96-0058

*発行責任者 根本 貞夫

*編集責任者 木村 孝一



（写真提供：山内憲章氏）

道元禅師のおことば

「人物身心の無常なるこれ仏性なり」

（仏性）

お言葉の意味

人の体や心の状態はいつも同じということはない。いわゆる「生・老・病・死」という現実、実は宇宙の変化の力であり、誰もがこの理法から脱出することはできない。この理法にあまり強く反抗すると、却って人生が苦しくなる。「変わる」ことが、宇宙の在り方なのである。人はうっかりすると、いつも楽しい日だけを期待するが、真の幸福は、「生・老・病・死」と苦楽の変化の果てに築き上げるものである。

少しずつ変えざるを得ないことも

総代会長 根本 貞夫



例年、お盆を迎える前に山内の草刈を総代役員全員で実施して参りました。大抵は8月5日前後のことです。暑さを避けて出来るだけ早朝から、蜂に刺されたりしながらも、ほぼ午前中をかけて毎年草刈作業を実施して来ました。幸い熱中症になるなどのこともありませんでした。しかし役員が高齢化し、中には80歳近い人もおります。真夏の酷暑の中で、お盆の前に万一にも重大な事故が起きてもいけません。そこで今年からこの時期の草刈は専門家にお願いすることとしました。もっとも皆で草刈を終え、清々しい風が吹き抜ける日陰での休憩中の団欒は一入でした。ましていつも参道脇で大黒様よりご馳走になった、良く冷えた美味しいスイカはもう食べられなくなりますが……。

二祖峨山韶碩禪師650回大遠忌報恩行について

住職 伊澤孝順



大本山總持寺では、二祖峨山韶碩禪師^{がさんじょうせき}650回大遠忌を今年の9月より来年の10月まで奉修されます。

ところで、曹洞宗は福井県にある大本山永平寺を開いた道元禪師と四代の神奈川県大本山總持寺を開いた螢山禪師の二祖により成り立っています。

螢山禪師の弟子に峨山禪師がいますが、螢山禪師の元で修行に励み、禪師との問答「^{りょうこ}両箇の月」つまり「一つの月は天にあって全世界を照らす月であり、もう一つの月は仏の慈悲によって心に宿る月」という意味で、26歳で悟りを得ることになります。

その後、禪師の勧めもあって諸国行脚の旅に出ます。旅よりもどってから、螢山禪師の代わりに石川県の總持寺と永光寺を務める事になり、往復60キロの険しい山道「峨山道」を永光寺で朝の勤行をすませるとすぐさま韋駄天走りに總持寺に向かう毎日であった。その間總持寺では「大悲心陀羅尼」と言う御経を眠くなるぐらいゆっくりと唱え、峨山禪師が寺に来られるのを待ったとの逸話があります。その為かどうかは定かでは有りませんが、今でも大本山總持寺では「大悲真読」と言ってゆっくりと唱えます。

螢山禪師入寂は元享4年（1324）、49歳時の峨山禪師は、人望厚く政治力も有り、地元の豪族より多くの寄進を受け、経済的な基盤を確立し、總持寺二世として曹洞禪の根本道場として発展させます。しかも65歳時には永光寺も兼帯することになります。

門弟の育成にも力を注ぎ、「五哲」と言われる5人の英才な弟子を育て、さらに「二十五哲」と言う25人の俊才な弟子を輩出します。

總持寺境内に五哲が開いた寺院「五院」が建立され、五院の合議で輪住制を制定し、總持寺の強化を長く発展させる基盤を作りあげます。

貞治5年（1366）91歳の長寿をもって入寂されましたが、峨山禪師によって宗門が今日まで相承される由縁で有ります。

なお、全国の曹洞宗御寺院が協力して「二祖峨山禪師報恩行」に真高寺も寄附金を志納致しました。そこで、曹洞宗千葉県宗務所第16教区では、来る11月4・5日に大本山總持寺（横浜市鶴見区）へ参拝研修旅行をしますので、ご希望の方は御参加下さい。（宿泊は『稲取 銀水荘』です）

山内あれこれ



桐生総代ありがとうございました

桐生文雄総代が引退されました。桐生さんには長年平野の檀家総代として、山門解体修理事業時の勧募部会並びに記念碑部会で尽力いただきました。また毎年恒例であった山内の草刈や裏山の雑木・竹伐り等の作業に、いつも率先してご奉仕下さいました。例えば高滝神社の役員も退かれたと聞いております。長年に渡り本当にありがとうございました。

なお、後任には山門解体修理事業の折に、協力委員として記念碑部会で尽力して頂きました桐木健治さんが就任されました。



皆様のご寄進ご奉仕に大感謝

お花の手入れ変わらずに

加藤美枝さんが今年も参道入り口の両側に、鳳仙花などの草花の苗を植えてくれました。「少しでも喜んでもらえれば、それだけで嬉しいです」とは美枝さんのお話です。いつもありがとうございます。



梵鐘の鐘木を 付け替えました

どうしても時がたてば古くなり、朽ちることは避けられません。そこを見かねて柿木台の花沢基さんが、梵鐘の鐘木を新たな棕櫚の木に取り換えてくれました。鐘の音も一段と澄み渡って聞こえます。



綺麗な スリッパです

飯給の平野達己さんから「真高寺」の名入れのスリッパを沢山いただきました。正に「脚下照顧」と言われているようです。



今年も10時からです

山門大施食会は年に一度、全ての檀家のご先祖の総供養を行う重要な行事です。従って、この行事の主役はお寺であると同時に、全ての檀家の皆様です。今年も午前10時より執り行います。どうぞ皆様も一緒に焼香し、その後で各家先祖供養の塔婆をお持ち帰り下さい。なお、新盆家付け施食会は、山門大施食会の終了後、11時より執り行います。



お盆の先祖供養の塔婆 申し込みはお早めに

施食会が新盆家のためだけのものではなく、全ての檀家のご先祖供養のためのものであることが、ようやくご理解いただけるようになりました。このことの象徴とも言えるものが、各家での先祖供養の塔婆です。どうぞ申し込みは直接お寺まで、或は本山料を頂戴する各檀家総代までお願いいたします。なお塔婆料は1本3千円です。



新盆家は20家です

今年の新盆家は霊園関係が10家11件で既に7月13日に催行されました。また根檀家は10家で、8月15日の山門大施食会の際に付け施食会として執り行います。



今年の新盆家



根檀家信徒及び棚経日程は次の通りです

霊園檀信徒			
中山	登家	山口	一浩家
三本木	明家	木暮	光弘家
小池	英一家	松永	汎敏家
富田	清家	江原	博家
鈴木	利之家	奥寺	ミヨ子家

8月13日		飯給地区	平野達己家
万田野地区	佐久間 栄一家		木村和嘉家
柿木台地区	花澤 基家		木村和央家
	大沼和夫家		金巻一男家
	大沼美智子家	平野地区	渡辺克己家
		養老地区	河邊正利家

今年は大戸と平野です

今年の棚経回りは大戸地区10家と平野地区21家です。

13日の午後から大戸地区を、そして14日は朝8時頃から平野地区を回ります。

従来の「海の日」を変更します

霊園関係の施食会を従来は海の日に行っていました。しかしやはりお盆の時期が望ましいとの声が多く聞かれました。そこで今年は7月13日としました。来年以降は7月13日から15日の間に行うことといたします。

ふじもん 諷誦文についてのお願いです

施食会の折に伊澤住職より一人一人お名前を読み上げる諷誦文につきましては、8月7日までに名前を楷書で書いて、諷誦文料一人分千円を添えてお申し込み下さい。

なお、例年施食会の開式直前に申し込まれる方が多くおられますが、名前の読み上げに間に合わなかったり、申込者氏名の張り出しが遅れてしまったりして苦情を受けることがございます。役員一同誠意をもって対応しておりますが、直前受付の場合、内容に不明な点があったり、申込者が多数であったりして、結果としてご迷惑をお掛けすることがありますことをご承知置きください。



第16教区護持会研修会開かれる

今年も恒例の第16教区護持会研修会が、6月23日（月）午後1時より、梅雨寒の中、佐是の延命山光福禅寺で開催されました。各寺の役員等79名が参加、真高寺からは根本貞夫総代会長と木村孝一総代の二人が参加しました。

初めに人権学習としてのビデオが放映され、同和に関わる人権差別の問題について話がありました。例年宗門の重要事項として扱われるこの問題は、以前曹洞宗が宗門として同和問題を看過していたという大きな反省に基づいてのことです。この後、特派布教師によるお話がありました。実際に先の東日本大震災の折に、何度もボランティアとして岩手に赴き、或は進んで被災者の受け入れを实践された方で、秋田県横手市の最香寺住職國安大智老師（51歳）でした。先ず初め、いつものように曹洞宗管長江川辰三様の告諭（お言葉）が代読されました。内容は「布施」についてでした。『物でも心でも惜しみなく分かち合い、へつらうことなく、見返りを求めることなく、お互いに生かし合う生き方を実践しなさい』というものです。この布施の内容について、老師自らのボランティア体験などを通して「先ずは実践することです」と具体的に面白くお話しされました。

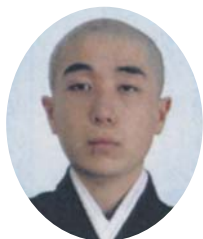


かわらけな 土器投げ年内実現に向けて

山門協での具体的な土器投げの実現に向けて、準備委員会を立ち上げました。7月5日に行われた総代会の中で、年内実現に向けて具体的なプラン作りを木村孝一、花澤基、篠田四郎、石渡與市郎、根本保男の5人の委員で先ず行うこととしました。



4日間だけです



伊澤尚孝さんが8月の4日間だけです。伊澤住職の次男である尚孝さんは、この春に駒澤大学を卒業されて直ぐに真高寺徒弟として、永平寺東京別院の長谷寺に5人の新規入山者の一人として迎えられました。5月1日に新到掛塔式が執り行われ正式に修行僧となりました。8月には丁度3か月が経過することから、4日間のお休みが認められるようで、施食会等の真高寺のお盆行事にも出られるそうです。

誤解をされていませんか

新盆家施食会の灯明料を目安としてお示ししております。しかし、これはあくまでも施主様に対してのものです。このことを誤解されて、施主以外の人は一切灯明料を申し出なくても良いのだと思われている方がおられるようです。施主様以外の親戚親族の方が故人への施しとして、灯明料を申し出るとはとても奇なことです。この場合、灯明料の単価は特に決めてありません。あくまでも、個人を思うお気持ちこそが大切だからです。



宗門あれこれ



牧山秀麿老師が示寂されました。

本郷の西光寺26世であり、吉沢の鳳来寺26世でもありました、牧山秀麿老師は世壽85歳にて2月3日に示寂されました。駒澤大学商経学部を卒業後、地元中学の教師として奉職されると共に、西光寺住職として宗門の発展に大いに寄与尽力されました。大変お世話になりました。ありがとうございました。

林哲徳老師長谷寺副寺職に就任

古敷谷の長楽寺住職の林哲徳老師には、4月23日永平寺東京別院である麻布の長谷寺重鎮副寺として、今後数年間をお勤めになられます。長谷寺は先に真高寺の初詣として皆さんと出向いた麻布にある都心のお寺です。老師には、例年、施食会等で真高寺へお見え頂いておりましたが、暫くは別院従事のために見えられません。



真如寺開創550年

真高寺の本寺でもある真里谷の天寧山真如寺は、今年8月8日をもって開創550年を迎えます。真如寺は寛正5年(1464年)の8月8日に甲斐武田氏の流れを汲む武田三河守信興により、真里谷城主の菩提を弔うために開基されました。現在は、清原俊光和尚が第47代の住職をされております。5年前から準備された記念法要には、関係者160人余が参列して6月22日に厳かに執り行われました。



宗務所が完成しました

市原市今富に建設が進められていた曹洞宗千葉県宗務所がようやく完成となりました。一般の檀信徒の皆さまは、日常的に関わりの薄いところですが、各寺院関係者には千葉県支部のような存在で、大いに重要な機能を持つところです。今富は地理的にはほぼ県の中央に位置し、高速道路の市原インターからも近い好立地となっています。



真高寺役員一覧表

職 名	氏 名	電話番号	担当地区
顧問	佐久間 常 壽	9 6 - 0 0 5 9	平野
永久総代	松 本 金 蔵	9 6 - 1 8 5 2	飯給
総 代 長	根 本 貞 夫	9 8 - 0 0 7 3	高滝
責任総代	木 村 孝 一	9 6 - 0 0 1 2	飯給
総 代	松 本 隆 允	9 6 - 1 8 5 4	飯給
	木 村 稔	9 6 - 1 8 5 7	飯給
〃	平 野 達 己	9 6 - 0 5 4 1	飯給
〃	花 澤 基	9 6 - 1 9 3 3	柿木台
〃	小 澤 恒 二	9 6 - 1 5 6 2	柿木台
〃	積 田 正 典	9 6 - 0 6 6 6	柿木台
〃	仲 村 信 義	9 6 - 1 8 6 8	万田野
〃	仲 村 文 夫	9 6 - 1 5 0 7	万田野
〃	篠 田 四 郎	9 6 - 1 8 8 6	万田野
〃	桐 木 健 治	9 6 - 0 5 3 4	平野
〃	石 渡 與市郎	9 6 - 0 5 5 8	平野
〃	泉 水 悦 郎	9 8 - 1 7 6 9	養老
〃	根 本 保 男	9 8 - 0 0 5 5	高滝
〃	四 倉 弥 一	9 6 - 0 7 6 6	石塚
〃	久保田 忠	9 6 - 0 5 2 1	大戸

檀信徒の皆様へ

ご貴家で万一ご不幸がありました時は、必ず寺の方へ、先ずはご一報下さるようお願いいたします。

また、寺にご意見やご不明な点がございましたら、遠慮なく手紙や葉書、あるいはファックスなどでお知らせ下さい。誠意をもってお応えいたします。